



# Oracle Enterprise Manager 日本語リリースノート

リリース 2.0.4

部品番号:A62834-3

## 目次

1. 概要
  - 1.1 この文書の目的
  - 1.2 新しい機能
  - 1.3 制限付き権利の説明
  - 1.4 リリース 2.0.4 製品セット
  - 1.5 パッチ・セットについて
2. 互換性に関する問題
  - 2.1 Oracle Enterprise Manager とデータベースの互換性
  - 2.2 Oracle Enterprise Manager と Intelligent Agent の互換性
  - 2.3 Intelligent Agent とデータベースの互換性
  - 2.4 コンソールとリポジトリの互換性
  - 2.5 リポジトリの制限事項
3. 一般的な注意事項と問題点
  - 3.1 Quick Tour
  - 3.2 ベータ・ユーザー向けの注意事項
  - 3.3 サポートされていない製品
  - 3.4 ドキュメントに関する注意事項
4. Universal Installer
  - 4.1 インストール時の適切な操作
  - 4.2 インストールと削除に関する既知の問題と注意事項
5. パフォーマンスに関する一般的な考慮事項
6. コンソールに関する問題と注意事項

- 6.1 コンソールに関する一般的な既知の問題と注意事項
- 6.2 ジョブ・システムとイベント・システムに関する既知の問題と注意事項
- 6.3 Solaris での問題
- 6.4 Windows 95/Windows 98 での問題
- 7. ブラウザ内部でのコンソールおよびアプリケーションの実行
  - 7.1 サポートしている Web ブラウザと適切な操作
  - 7.2 ブラウザからの起動時のパフォーマンス: 予期されている動作
  - 7.3 既知の制限
- 8. データベース管理アプリケーションに関する問題
  - 8.1 一般的な問題と注意事項
  - 8.2 Instance Manager に関する問題
  - 8.3 SQL\*Plus Worksheet に関する注意事項
  - 8.4 バックアップと回復に関する注意事項
  - 8.5 マニュアルに関する注意事項
- 9. Management Server に関する注意事項
  - 9.1 適切な操作と注意事項
- 10. リポジトリの移行に関する問題と注意事項
  - 10.1 一般的な問題

## 2 リリースノート

## 1. 概要

### 1.1 この文書の目的

この文書では、出荷された製品版 Oracle Enterprise Manager 2.0.4 の機能と、ドキュメントで説明されている機能との相違点について説明します。また、この製品リリースに関する最新情報も含まれます。この文書の内容は、CD 媒体上で提供される Readme ファイルの内容と一部異なる場合があります。

### 1.2 新しい機能

Oracle Enterprise Manager 2.0.4 で導入された新しい機能についての詳細な説明は、『Oracle Enterprise Manager 概要』および『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』を参照してください。

### 1.3 制限付き権利の説明

このソフトウェアには、オラクル社が権利を保有する情報が含まれています。このソフトウェアは、製品の使用と情報開示に関する制限事項を記載したライセンス同意書に基づいて提供されており、著作権法によって保護されています。また、ソフトウェアのリバース・エンジニアリングは禁止されています。

このプログラムは、原子力、航空、大量輸送、医療など、本質的に危険を伴うアプリケーションを用途として特に開発されておりません。上述目的のためのプログラムの使用は、フェイルセーフ、バックアップ、冗長性など、アプリケーションの安全な使用を保証するためのあらゆる適切な手段を講じた上でライセンス取得者の責任により行っていただきたく、万一かかる用途での使用により損害が発生いたしましてもオラクル社は一切の責任を負いかねます。

このプログラム(ソフトウェアとドキュメントの両方を含みます)には、オラクル社が権利を保有する情報が含まれています。このプログラムは、製品の使用と情報開示に関する制限事項を記載したライセンス同意書に基づいて提供されており、著作権、特許権およびその他の知的所有権に関する法律により保護されています。プログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブルまたは逆コンパイルは禁止されています。この文書に記載されている情報は、予告なしに変更されることがあります。この文書中になんらかの問題を発見した場合は、書面にてオラクル社までお知らせください。オラクル社では、この文書に誤りがないことを保証していません。プログラムに対して供与されるライセンス同意書の中で明示的に許可された場合を除き、オラクル社からの書面による明示的な許可なしにプログラムの一部または全部を電子的、機械的またはその他の手段により複製または電送することは、その目的の如何を問わず禁止されています。

このプログラムが米国政府、または米国政府の代理としてプログラムをライセンス供与

または使用する機関に配布される場合、次の事項が適用されます。制限付き権利の説明: DOD FAR Supplement の承諾下で配布されるプログラムは”商用コンピュータ・ソフトウェア”であり、ドキュメントを含むプログラムの使用、複製および開示は、適用可能なオラクル社のライセンス同意書に記載されたライセンス制限事項に従うものとします。上記の条件に該当しない場合、Federal Acquisition Regulations の承諾下で配布されるプログラムは”制限付きコンピュータ・ソフトウェア”であり、プログラムの使用、複製および開示は、FAR 52.227-19 の Commercial Computer Software – Restricted Rights (1987 年 6 月) の制限事項に従うものとします。Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065

Oracle7、Oracle8、Oracle8i、Oracle Enterprise Manager、Oracle Trace、Net8、Oracle Expert および PL/SQL は、Oracle Corporation の登録商標です。Windows、Windows NT、Visual C++および OLE は、Microsoft Corporation の商標です。本文中の他社の商品名は、それぞれ各社の職章、商標または登録商標です。Netscape、Netscape Certificater Server、Netscape FastTrack Server、Netscape Navigator、Netscape ONE、SuiteSpot、Netscape の N および Ship's Wheel のロゴは、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。その他のすべての製品名または会社名は確認目的にのみ使用されるものであり、各製品の所有者の商標である場合があります。OraTcl – Copyright 1993 Tom Poindexter and US West Advanced Technologies, Inc. このソフトウェアとそのドキュメントの使用、複製、変更および配布に関する許可は、すべてのコピーに著作権情報を記載する条件のもとであらゆる目的のために無償で供与されます。Tom Poindexter および U S WEST は、このソフトウェアのいかなる目的に対する適合性についての表現も行いません。このソフトウェアは、明示または暗黙の保証を伴うことなく「現状のまま」提供されます。このソフトウェアの使用により、使用者は Tom Poindexter および U S WEST に対してソフトウェアの使用に由来する損失についての一切の申し立てもしくは責任の請求を行わないことに同意するものとします。

#### 4 リリースノート

#### 1.4 リリース2.0.4製品セット

Oracle Enterprise Manager	2.0.4	
DBA Management Pack	2.0.4	
SQL*Plus Worksheet	2.0.4	
Schema Manager	2.0.4	
Security Manager	2.0.4	
Storage Manager	2.0.4	
Instance Manager	2.0.4	
Extended Database Administration		
Directory-Enabled Oracle Security Manager	1.0	*1
Replication Manager	2.0	*1
Oracle Parallel Server Manager	2.0.4	
Oracle8i <i>interMedia</i> Text	2.0.4	*1
Repository Migration Wizard	2.0.4	
Oracle Management Server	2.0.4	
Oracle Applications Manager	1.0	*1
Oracle Applications Manager Server Extensions	1.0	*1
Net8 Client	8.0.4	
Oracle Launch Pad	1.0.1	*1
Oracle Universal Installer	1.6.0	
Oracle Enterprise Manager Web Site	2.0.4	

#### 備考

コンポーネントは製品メディアに含まれる製品コンポーネント一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

\*1) 1999年10月29日現在、サポートされていません。

- 1.5 本製品には、製品の問題を修正するパッチを Oracle Enterprise Manager R2.0.4 パッチ・セット CD-ROM に含めて提供しています。これらのパッチを適用する前には、本リリース・ノートおよびパッチ・セット CD-ROM 内の日本語 Readme ファイルを参照してください。

## 2. 互換性に関する問題

### 2.1 Oracle Enterprise Manager とデータベースの互換性

次の表に、Oracle Enterprise Manager リリース 2.0.4 のコンポーネントと Oracle サーバーの各リリースとの互換性を示します。コンポーネントが特定のサーバー・リリースで動作することが確認されている場合、その項目に”あり”と記されています。

	Oracle サーバー		
	7.3.x	8.0.x	8.1.5
コンソール イベント、ジョブ、検出	あり(注 1)	あり	あり
Management Server	あり	あり	あり
DBA Management Pack データベース・ツールおよびウィザード	あり	あり	あり

注 1: バックアップ・ジョブおよび回復ジョブは、Oracle8 および Oracle8i データベースでのみサポートされています。

### 2.2 Oracle Enterprise Manager と Intelligent Agent の互換性

Oracle Enterprise Manager リリース 2.0.4 は、リリース 8.0.3 およびそれ以降のエージェントとの組合せで動作することが確認されています。ただし、Windows NT 上では、次に示す重要な例外があります。

Windows NT 上で動作する Intelligent Agent とともに Oracle Enterprise Manager リリース 2.0.4 を実行するためには、Intelligent Agent リリース 8.1.5 を使用するか、リリース 7.3.x またはリリース 8.0.x の既存のエージェントをリリース 8.0.5.1 の Intelligent Agent にアップグレードする必要があります。

Windows NT 上の Intelligent Agent へのパッチに関する注意事項

Windows NT 上では、新しいパッチ・リリースとして Oracle Intelligent Agent 8.0.5.1 が利用可能です。

これらのパッチ・リリースでは、Enterprise Manager 2.0.4 の実行時に、Windows NT 上

## 6 リリースノート

のリリース 7.3.x または 8.0.x の Intelligent Agent で確認された問題を修正しています。Enterprise Manager リリース 2.0.4 をサポートするためには、これらのパッチを適用する必要があります。

これらのパッチに関しては、Oracle Enterprise Manager 2.0.4 パッチ・セット CD-ROM 内に含まれております。詳細は、CD-ROM 内の日本語 Readme ファイルを参照してください。

## 2.3 Intelligent Agent とデータベースの互換性

Intelligent Agent は、同時にリリースされたデータベース、およびそれ以前にリリースされたデータベースとの互換性があります。新しいリリースの Intelligent Agent を使用して古いリリースのデータベースを管理するような状況下では、エージェント固有の ORACLE\_HOME、またはそのバージョンが Intelligent Agent のバージョンと完全に一致する ORACLE\_HOME にエージェントがインストールされている必要があります。古いリリースの Intelligent Agent は、それよりも新しいリリースの Oracle データベースとの互換性がありません。

また、7.3.4 以前のリリースの Intelligent Agent を使用すると、日本語出力時に日本語文字列が文字化けするため、Oracle Server 7.3.x を使用される時は、リリース 8.0.3 以上の Intelligent Agent を使用してください。(Bug#872852)

次の表は、Intelligent Agent の各リリースと Oracle サーバーの特定のリリースとの間の互換性を示したものです。Intelligent Agent が特定のサーバー・リリースとの組合せで動作することが確認されている場合、その項目に”あり”と記されています。

### ① Oracle Server for Windows NT の場合

	Oracle サーバー				
	7.3.x (注 1)	8.0.3	8.0.4	8.0.5	8.1.5
Intelligent Agent リリース 8.0.5.1	あり	あり	あり	あり	なし
Intelligent Agent リリース 8.1.5	あり	あり	あり	あり	あり

注 1: 7.3.4 以前のリリースでは、Management Pack の一部の機能は利用できません。制限の詳細は、Management Pack の個別のリリースノートを参照してください。

② Oracle Server for Unix の場合

	Oracle サーバー				
	7.3.x (注 2)	8.0.3	8.0.4	8.0.5	8.1.5
Intelligent Agent リリース 8.0.3	あり	あり	なし	なし	なし
Intelligent Agent リリース 8.0.4	あり	あり	あり	なし	なし
Intelligent Agent リリース 8.0.5	あり	あり	あり	あり	なし
Intelligent Agent リリース 8.1.5	あり	あり	あり	あり	あり

注 2: 7.3.4 以前のリリースでは、Management Pack の一部の機能は利用できません。制限の詳細は、Management Pack の個別のリリースノートを参照してください。

2.4 コンソールとリポジトリの互換性

Enterprise Manager リリース 2.0.4 のリポジトリは、リリース 7.3 またはそれ以降の任意の Oracle データベースに配置できます。

リポジトリのバージョンは、それとともに使用される製品のリリースと互換性を有している必要があります。Oracle Enterprise Manager リリース 2.0.4 では、リリース 2.0.4 のリポジトリを使用する必要があります。Enterprise Manager リリース 2.0.3、2.0.2 または 2.0.1 ベータのリポジトリをアップグレードして、Enterprise Manager リリース 2.0.4 とともに動作させることはできません。1 つ以上のリリース 1.x のリポジトリをリリース 2.0.4 のリポジトリにアップグレードする方法の詳細は、『Oracle Enterprise Manager 構成ガイド』を参照してください。

2.5 リポジトリの制限事項

データベースのキャラクタ・セットが UTF8 の場合、リポジトリ・データベースとしての使用はサポートしません。日本語データベースを、リポジトリ・データベースとして使用する場合は、キャラクタ・セットは必ず EUC もしくは SJIS を使用してください。

3. 一般的な注意事項と問題点

3.1 Quick Tour

Oracle Enterprise Manager リリース 2.0.4 を実行する前に、Quick Tour を利用して新しいアーキテクチャ、新しい機能およびユーザー・インタフェースのデザインを習得してく

8 リリースノート



ださい。Quick Tour は Enterprise Manager リリース 2.0.4 の CD から直接起動できます。また、任意のログイン・ダイアログや Windows システムの「スタート」メニューからも起動できます。

- 3.1.1 Windows のスタート・メニューから Quick Tour を起動した場合、英語版の Quick Tour が起動されます。(Bug#890212)

日本語版の Quick Tour を、Windows のスタート・メニューから起動する場合は、以下の手順を参照してください。

1. Windows のスタート・メニューの ”プログラム¥Oracle-<ORACLE\_HOME 名>¥Oracle Enterprise Manager¥Enterprise Manager Quick Tour” のプロパティの、ショートカットのリンク先を以下のように変更してください。

`$ORACLE_HOME¥classes¥oracle¥sysman¥help¥vtc¥qt_ja_JP¥em.htm`

(“\$ORACLE\_HOME”は、Oracle ホーム・ディレクトリを指定してください)

2. 同様に、Windows スタート・メニューの ”プログラム¥Oracle-<ORACLE\_HOME 名>¥Oracle Enterprise Manager ¥DBA Management Pack Quick Tour” のプロパティの、ショートカットのリンク先を以下のように変更してください。

`$ORACLE_HOME¥classes¥oracle¥sysman¥help¥vtc¥qt_ja_JP¥dba.htm`

### 3.2 ベータ・ユーザー向けの注意事項

- 3.2.1 注意:Enterprise Manager リリース 2.0.2 ベータまたはリリース 2.0.3 ベータのユーザー・リリース 2.0.4 の Enterprise Manager をインストールする前に、リリース 2.0 のすべてのベータ・バージョンの Enterprise Manager を削除する必要があります。

### 3.3 サポートされていない製品

- 3.3.1 以下の製品はサポートされませんので、ご注意ください。

- Directory Enabled Oracle Security Manager
- Replication Manager
- Oracle8i *interMedia* Text Manager
- Oracle Applications Manager
- Oracle Applications Manager Server Extensions
- Oracle Launch Pad

### 3.4 ドキュメントに関する注意事項

- 3.4.1 この製品で提供されている英語ドキュメントと同一ドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。
- 3.4.2 Oracle8i 関連ドキュメントは、英語版を翻訳しているため、ドキュメント中で参照されている情報には、日本では提供されていないものも含まれます。

- マニュアル名
- ソフトウェア名
- インターネット URL

#### 4. Universal Installer

##### 4.1 インストール時の適切な操作

- 4.1.1 Oracle Enterprise Manager リリース 2.0.4 は、独自に作成した個別の Oracle ホームにインストールする必要があります。
- 4.1.2 Oracle Enterprise Manager および Management Pack がインストールされている Oracle ホームには、Enterprise Manager CD または Management Pack CD に収録されているもの以外の製品をインストールしないでください。
- 4.1.3 インストールを途中で終了した、あるいはその他の理由でインストールが完了していない場合、Universal Installer はインストールをそのインベントリに登録しません。ただし、選択した Oracle ホームにいくつかのファイルがコピーされている可能性があるため、それらのファイルを手動で削除してインストールを再開することをお勧めします。
- 4.1.4 インストールされた製品を、(Universal Installer を使用せずに)そのディレクトリを削除することによって物理的に削除した場合、新しい製品をインストールする前に、Universal Installer を使用して標準の削除プロセスを実行して、インストール・イメージとディスク・イメージが同じになるようにしてください。

##### 4.2 インストールと削除に関する既知の問題と注意事項

- 4.2.1 リリース 2.0.4 の Enterprise Manager または Management Pack をインストールするとき、インストール先の Oracle ホーム・ディレクトリの名前に空白が含まれていると、製品は正しく動作しません。インストール先の Oracle ホームの名前には空白を含めないようにしてください。(Bug#705776)
- 4.2.2 NCD X 端末上の Sun マシンからのアプリケーションを Java が実行できない(インストーラが起動しない)場合、次のファイルを削除してください。

`/usr/java/lib/font.properties`

- 4.2.3 Oracle Universal Installer を使用してインストールした Oracle 製品をマシンから完全に

## 10 リリースノート

削除するには、次のファイルまたはディレクトリを削除してください。

- ORACLE\_HOME ディレクトリ
- <oraInventory> -- /var/opt/oracle/oraInst.loc または Windows NT レジストリにリストされたインベントリ・ディレクトリの場所
- <oraInventory>/../oui
- <oraInventory>/../jre

4.2.4 Windows システム上の製品を削除するとき、Oracle ホームから Oracle Universal Installer を実行すると、w32bootstrap.dll、ewt.jar、help.jar、HotJavaBean.jar、oraInstaller.jar などの一部のファイルは<oraInventory>%oui ディレクトリに残ります。これらのファイルは手動で削除する必要があります。Windows システムの場合、デフォルトの<oraInventory>は、c:%Program Files%Oracle に相当します。(Bug#652956)

4.2.5 既存のリポジトリに対して追加の Management Server をインストールする際に「標準」インストール・タイプを選択する場合、インストール後に自動的に起動する Oracle Configuration Assistant を取り消す必要があります。新しくインストールされた Management Server に対するリポジトリ接続情報を定義するには、Configuration Assistant を個別に起動して「構成パラメータの編集」を選択します。

4.2.6 Solaris: インストール終了時に Readme ファイルを参照するように選択した場合、Readme を表示するためのツール/コマンドを入力するよう求められます。テキスト・ビューアを使用して Readme を参照するには、接続ダイアログで'xterm -e more'と入力する必要があります。

## 5. パフォーマンスに関する一般的な考慮事項

パッケージに記載のとおり、Oracle Enterprise Manager リリース 2.0.4 は次の環境下で最適に動作することが想定されています。

- 少なくとも推奨のメモリー容量と CPU 能力を備えたマシン上で Management Server が動作している
- リポジトリ・データベースが過度のリソース競合を伴わずにマシン上で動作している
- 少なくとも推奨のメモリー容量と CPU 能力を備えたマシン上で各コンソールが動作している

管理環境はさまざまに異なるため、Enterprise Manager リリース 2.0.4 は、最も一般的な実行環境下で顧客による調整が行われなくても適切に動作するようにチューニングさ

れています。より大規模で複雑な環境に対してパフォーマンスを改善するための推奨事項は、下記を参照してください。

デフォルト・パッケージ、すなわち単一の Management Server 環境は、次のような特徴を持つ環境を最適にサポートするためにチューニングされています。

- 40～50 の管理対象ノード
- 80～100 の管理対象データベース・インスタンスまたはその他の管理対象ターゲット(1 ノード上に 10 までの管理対象ターゲット)
- 同時にアクティブに使用される 3～4 のコンソール。断続的または受動的な作業に対して使用される 6～8 のコンソール
- 1 日、1 ノードごとに稼働中の 10 のジョブ
- 1 日、1 ノードごとに同時にトリガーする 10 のイベント

管理対象のノード数が増加したときにパフォーマンスを改善する方法として、オラクル社では次のいずれかをお薦めしています。

- 新しい Management Server を追加する(管理対象の追加 50 ノードごとに 1 サーバー)
- Management Server が動作するマシンの CPU 能力を強化する

コンソール数の増加や、ジョブまたはイベントのアクティビティの増加に対処する目的でパフォーマンスを強化するには、リポジトリ・データベース・マシン上のリソース容量を増強することをお薦めします。

## 6. コンソールに関する問題と注意事項

### 6.1 コンソールに関する一般的な既知の問題と注意事項

#### 起動に関する問題

- 6.1.1 コンソールの起動後に別のウィンドウを選択すると、ログイン・ダイアログが前面に表示されなくなります。ログイン・ダイアログを前面に表示するには、すべてのアクティブなウィンドウを最小化するか、[Alt]キーを押しながら[Tab]キーを押して、コンソール・アプリケーションを選択する必要があります。(Bug#806713)
- 6.1.2 コンソールの起動時に各ペインが正しく表示されない場合、コンソールの任意の部分のサイズを変更することによりこの問題を修正できます。(Bug#809689)
- 6.1.3 コンソールの起動時にシステムが応答を停止した場合、アプリケーションを手動で終了してコンソールを再起動してください。以後、停止することなくログインが進行します。

## 12 リリースノート

## 検出に関する問題

- 6.1.4 全く同じ名前の複数のサービスがユーザーによって検出された場合、サービスの種類に関係なく、検出されたサービスのうち 1 つだけがナビゲータに表示されます。(Bug#640068)
- 6.1.5 手動で検出されるノードまたはサービスに対して、イベントの登録またはジョブの送信を行うことはできません。手動で検出されるノード(Intelligent Agent が動作していないノード)は、この制限の有無に関係なくジョブおよびイベントのペインに表示されます。特定のノード上でエージェントが動作しているかどうかは、「システム」メニューの「エージェントへの Ping」を選択することによって確認できます。
- 6.1.6 (Intelligent Agent を使用せずに)手動で検出されたノードを Intelligent Agent を使用して再検出するには、そのノードをまずナビゲータ内で削除する必要があります。(Bug#790175)

## 複数の Administrator に関する問題

- 6.1.7 同時に 2 つのオブジェクトが編集される場合、最後にコミットされた編集作業により、その前にコミットされた変更作業の結果は警告なしに上書きされます。(Bug#645347)
- 6.1.8 ジョブ・システムまたはイベント・システムの権限を Enterprise Manager Administrator から取り消すとき、その変更を有効にするためには、影響を受ける Administrator がいったんログアウトして再びコンソールにログインする必要があります。(Bug#810795)

## その他の問題

- 6.1.9 あるウィンドウ内で項目が選択されているとき、前に選択された項目の選択が解除されず、その結果同時に 2 つの項目が選択されているように見ることがあります。このとき実際に選択されているのは、最後に選択された項目です。ユーザーは通常、新しいウィンドウ内で別の項目を選択することによりこの問題を解決できます。(Bug#618771)
- 6.1.10 コンソールの使用中に、実際はそうでないにもかかわらずカーソルがビジーに見える場合があります。たとえば、ダイアログまたはフォルダをクローズした後で、ビジー・アイコンが表示されたままになるような場合です。この問題は、ナビゲータを完全に閉じることにより解決できます。
- 6.1.11 「グループ」ペインが「イベント」ペインと同期していない場合、「グループ」ペインを手動でリフレッシュすると同期します。「グループ」ペインを手動でリフレッシュするには、ナビゲータ内で「グループ」フォルダをいったん縮小して再び展開します。
- 6.1.12 ダイアルアップ接続を通じてコンソールを実行しているときには、Windows システムの「TCP/IP プロトコル」のプロパティで「DHCP サーバーから IP アドレスを取得する」が選択されている必要があります。

- 6.1.13 ダイアログからヘルプを起動したときに、「ヘルプ・トピック」ページ上でスクロールを行うことができない場合があります。このような場合、ダイアログをクローズして、メイン・メニューの「ヘルプ」から「ヘルプ・トピック」ページを表示してください。(Bug#742945)
- 6.1.14 長いデータのリストを含むウィンドウでは、スクロールバーがリストの下端近くに位置している場合にウィンドウが空白に見える場合があります。この問題は、スクロールバーの位置を移動することにより解決できます。(Bug#819774)
- 6.2 ジョブ・システムとイベント・システムに関する既知の問題と注意事項
  - 6.2.1 登録解除の対象として複数のイベントを選択しているとき、「イベント」メニューまたは状況判断メニューにある「イベントを削除」項目は使用不可になっています。複数のイベントの登録を同時に解除するには、左ツールバー上の「ごみ箱」アイコンを使用する必要があります。
  - 6.2.2 ジョブ出力画面をオープンしているとき、この画面内のテキストを編集できます。ただし、変更された情報は保存されません。
  - 6.2.3 一定間隔で実行されるジョブが「ユーザー認証に失敗しました。」というエラーを表示して失敗する場合、その後続のジョブは、前のジョブが失敗したターゲットに向けて再送信されません。ターゲット上でジョブを実行するための接続情報を正しく設定したあとで、ジョブを再送信する必要があります。(Bug#737480)
  - 6.2.4 データベース・ジョブ・タスクを実行するためには、ターゲット・データベースが存在するノードに対するノード接続情報を設定する必要があります。ノード接続情報を設定しないと、ジョブの実行時に認証失敗エラーが発生します。(Bug#745152)
  - 6.2.5 失敗した前のタスクの結果として「ジョブの停止」タスクが実行される場合、その実行後に「ジョブ履歴」ページでそのジョブは「完了」状態を示します。ジョブ内部のなんらかのタスクが失敗した場合には、「失敗」状態が表示されます。(Bug#776245)
  - 6.2.6 「イベント」ペインの「警告」ページ内の通知は、対応するイベントが登録解除されている場合でもアラーム中には表示されたままです。このことが原因で、「警告」ページと「グループ」ペインとの間に不一致が生じる場合があります。イベントの登録を解除するときには、「警告」ページの対応する通知をすべて削除するか「履歴」ページに移動することをお勧めします。(Bug#746868)
  - 6.2.7 削除済みの修正ジョブがイベントに含まれる場合、ライブラリでそのイベントを編集することはできません。(Bug#745424)
  - 6.2.8 対応する修正ジョブを伴うイベント・テストがすでにエージェントに登録されている場合、その同じイベント・テストをリポジトリからエージェントに再登録することはできません。そのようなイベントを再登録しようとする、「修正ジョブは既に存在します」エラーが発生します。(Bug#800452)

## 14 リリースノート

- 6.2.9 「イベント」ペインの「履歴」ページまたは「警告」ページのどちらかで選択したイベント発生に対して、「ライブラリへのコピー」メニュー項目を選択すると、エラーが発生します。このメニュー項目は、「登録済」ページからイベントを選択したときにのみ正しく機能します。(Bug#816889)
- 6.2.10 コンソールに送られてきた通知が原因で、項目の選択が失われる場合があります。この問題が発生すると、「適切な項目を選択してください」という警告が表示されます。メッセージを消し、適切な項目を再び選択して操作を続行してください。

### ポケットベル/電子メール

- 6.2.11 あるノードが一定期間停止した後で再び到達可能になるとき、そのノード上の他のサービスのイベント状態がクリアされたことを示すイベント通知を受けることがあります。ただし、通知の本体には、そのノードがまだ「停止中」であると示されている可能性があります。この問題が発生した場合でも、「ノード停止中」状態は数分のうちに自動的にクリアされます。(Bug#823534)
- 6.2.12 ポケットベル機能に関しては、日本で使用されているポケットベル通信規格に対応していません。ご使用になる場合には、この問題を修正するパッチを適応する必要があります。このパッチに関しては、本製品で提要している Oracle Enterprise Manager 2.0.4 パッチ・セット CD-ROM 内に含まれております。詳細は、CD-ROM 内の日本語 Readme ファイルを参照してください。(Bug#886524)

### 6.3 Solaris での問題

- 6.3.1 Solaris 上でのみ発生する問題:「ジョブの作成」ダイアログまたは「イベントの作成」ダイアログがアクティブなときにコンソールを選択すると、ダイアログはコンソールの背後に移動します。ダイアログを前面に表示するには、ダイアログが見えるようになる程度にまでコンソールのサイズを小さくします。注意: この状況下でコンソールを最小化すると、ダイアログも同時に最小化されます。(Bug#658980)

### 6.4 Windows 95/Windows 98 での問題

- 6.4.1 Windows 95 または Windows 98 上でコンソールまたは任意の DBA Management Pack アプリケーションを起動するとき、2つのウィンドウが表示されます。1つはアプリケーションに対してのウィンドウ、もう1つはバックグラウンド JRE に対してのウィンドウです。JRE ウィンドウは自動的に最小化されます。このウィンドウはクローズしないでください。このウィンドウをクローズすると、対応するアプリケーションが終了します。(Bug#812537)
- 6.4.2 Windows 95 または Windows 98 でコンソールまたは任意の DBA Management Pack アプリケーションをクローズするとき、最小化された JRE ウィンドウは、MS-DOS プログラム

のウィンドウとしてオープンしたまま残ります。このウィンドウは手動でクローズする必要があります。(Bug#805893)

## 7. ブラウザ内部でのコンソールおよびアプリケーションの実行

### 7.1 サポートしている Web ブラウザと適切な操作

次の表は、ブラウザ内部で Enterprise Manager リリース 2.0.4 を実行するためにサポート対象となるブラウザおよびオペレーティング・システムを示したものです。サポートされる構成は”あり”、サポート対象外の構成は”なし”で示されます。下記以外の構成はサポートされません。

	オペレーティング・システム			
	Sun Solaris	Windows NT 4.0	Windows 95	Windows 98
Netscape Navigator 4.0.5 以降	なし	あり	あり	あり
Microsoft Internet Explorer 4	N/A	あり	あり	なし

7.1.2 コンソールおよび Java DBA アプリケーションをブラウザから実行するためには、ブラウザによる使用のために構成されているすべてのプロキシ設定を削除する必要があります。

7.1.3 Microsoft Internet Explorer ブラウザが Microsoft アクティブ・デスクトップから実行されているときには、ブラウザを使用して Oracle Enterprise Manager を実行しないでください。この構成はサポート対象外です。(Bug#740577)

7.1.4 同じマシン上の単一のブラウザから、複数のコンソールを同時に実行しないでください。同時使用については、関連付けられたデータベース管理アプリケーションも含めて、ブラウザ・ベースの単一のコンソールだけがサポートされます。(Bug#818695)

### 7.2 ブラウザからの起動時のパフォーマンス: 予期されている動作

7.2.1 ブラウザから Enterprise Manager Console に最初に接続するとき、Oracle JInitiator プラグインをインストールするように要求されます。このダウンロードには数分かかる場合があります。所要時間は、使用しているマシンおよびネットワークの環境によって変わります。

JInitiator プラグインがインストールされると、コンソールを起動、実行するための準備が整います。ブラウザ内部からコンソールを最初に起動するときには、それ以後の起動に



比べてログインに最大 2 倍程度の時間がかかる場合があります。

コンソールにいったん接続されると、特殊な DBA アプリケーションまたはダイアログの起動時に時折遅延が生じる場合があります。ただし、一般にそのパフォーマンスは、インストールされたアプリケーションとしてコンソールを実行する場合と同様です。

注意: ブラウザ内部でダイヤルアップ接続を通じて Enterprise Manager を実行するとき、実行に要する時間は通常長くなり、またその時間は接続速度に応じて変わります。

### 7.3 既知の制限

- 7.3.1 コンソールをブラウザから起動するとき、コンソールが小さく、ウィンドウの左上部分にしか表示されないことがあります。この問題を修正するには、コンソール・ウィンドウのサイズを変更します。(Bug#741472)
- 7.3.2 ブラウザ・ベースのコンソールを使用するイベントに対しては、ポーリング頻度を調整できません。用意されたデフォルトの頻度以外のポーリング頻度を持つイベントを作成するには、インストールされたコンソールを使用する必要があります。(Bug#824937)
- 7.3.3 ブラウザ内部から Enterprise Manager リリース 2.0.4 を実行しているとき、一部のダイアログおよびウィンドウに「警告: アプレット・ウィンドウ」というメッセージを伴った黄色のバナーが表示されることがあります。これは予期されている動作であり、無視しても構いません。

## 8. データベース管理アプリケーションに関する問題

### 8.1 一般的な問題と注意事項

- 8.1.1 アプリケーションで利用可能なキー・アクセラレータはありません。(Bug#626331)
- 8.1.2 OS 認証は、データベースに直接接続しているとき(クライアント・サーバー・モード)にのみ機能します。Management Server を介して接続しているときには、OS 認証はサポートされません。
- 8.1.3 Oracle 8.1.5 データベースにローカルで、つまり同じマシンおよび同じ Oracle ホームから接続しているとき、SYS ユーザーに対するデフォルトのパスワードは CHANGE\_ON\_INSTALL です。一方、Oracle 8.1.5 データベースにリモートで、つまり別のマシンまたは別の Oracle ホームから接続しているときには、SYS ユーザーのデフォルトのパスワードは ORACLE です。

### 8.2 Instance Manager に関する問題

- 8.2.1 Instance Manager は、不正な MTS\_DISPATCHERS パラメータを使用します。(Bug#653103)

次の操作を行うことにより、この問題に対処できます。

- 格納された構成をその作成後に編集する
- mts\_dispatchers パラメータの値を(PROTOCOL=TCP)(DISPATCHERS=1)のように、あるいは init.ora ファイルに設定されている値に設定する

注意: 値に対しては Oracle8 の構文を使用することが非常に重要です。以後、この構成を使用してデータベースを正しく起動できます。

### 8.3 SQL\*Plus Worksheet に関する注意事項

8.3.1 SQL\*Plus Worksheetを使用するためには、SQL\*Plusの実行形式プログラムがクライアント(データベースに直接接続している場合)または Management Server ノード(Management Serverを通じて接続している場合)上にインストールされている必要があります。SQL\*Plus は Oracle Enterprise Manager とともにインストールされますが、Enterprise Manager の SQL\*Plus Worksheet との組み合わせでのみ使用できます。それ以外の用途での SQL\*Plus の使用には、SQL\*Plus のライセンスが別途必要となります。

8.3.2 Windows NT 上で SQL\*Plus Worksheet を使用している時、正しい情報を入力しているにも関わらず、データベースにログインできない場合や、日本語が正しく表示されない場合があります。その場合は、\$ORACLE\_HOME¥sysman¥config¥dbapps.cfg ファイルに、以下の文字列を追加してください。(Bug#860419, #860427)

SQLPLUS.SYSTEMROOT=<Windows NT のシステムディレクトリ> (例:  
C:¥¥WINNT)

SQLPLUS\_NLS\_LANG=JAPANESE\_JAPAN.JA16SJIS

### 8.4 バックアップと回復に関する注意事項

8.4.1 Oracle Enterprise Manager リリース 2.0.4 で提供されるバックアップおよび回復の機能は、Oracle8 および Oracle8i データベース上でのバックアップおよび回復だけをサポートします。

### 8.5 マニュアルに関する注意事項

8.5.1 『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』の第 9 章「バックアップとリカバリの管理」の次の誤りを修正してください。9-30 ページに次の記載があります。

“ 2. create catalog コマンドを発行して、カタログを作成します。

RMAN> create catalog tablespace rcvcat; ”

Windows NT 上では、このコマンドは失敗します。かわりに次のコマンドを使用してくだ

## 18 リリースノート

さい。

```
RMAN> create catalog tablespace "RCVCAT";
```

この変更は Windows NT に対してのみ適用されます。UNIX 上では、マニュアルに記載されたとおりのコマンドを使用してください。

## 9. Management Server に関する注意事項

### 9.1 適切な操作と注意事項

- 9.1.1 最高のパフォーマンスを得るためには、使用するリポジトリ・データベースに対する init.ora ファイル内で sessions=200 のように設定してください。
- 9.1.2 同じリポジトリに接続しているすべての Management Server は、同じ DNS ドメインに属している必要があります。
- 9.1.3 同じマシン上での 2 インスタンスの Management Server の実行は、サポートされていません。
- 9.1.4 Windows NT 上では、Management Server のインストールの一環として Oracle Configuration Assistant が実行されるとき、Management Server が起動されます。Configuration Assistant を独立して実行する場合には、Management Server は起動されません。
- 9.1.5 Management Server とそのリポジトリを同じ Windows NT マシン上で組み合わせて実行している場合、マシンの再起動時に Management Server は自動的に起動しません。ローカル・データベースが起動されていることを確認した上で、Management Server を手動で起動する必要があります。
- 9.1.6 Windows NT 上では、Management Server のメモリー消費量を定期的に監視することをお勧めします。メモリー消費が 40MB を超える場合は、そのノード上の Management Server をいったん停止して再起動することをお勧めします。
- 9.1.7 Oracle Enterprise Manager リリース 2.0.4 がインストールされている Oracle ホームにある sqlnet.ora ファイルでは、sqlnet.authentication\_services = (NTS) のように設定しないでください。

## 10. リポジトリの移行に関する問題と注意事項

### 10.1 一般的な問題

- 10.1.1 一部のサービスに対する優先接続情報は、バージョン 1.x のリポジトリからリリース 2.0.4 のリポジトリに正しく移行できません。この問題が発生した場合、リリース 2.0.4 のコンソ

ールで、そのサービスに対する優先接続情報を手動で設定する必要があります。(Bug#751627)

- 10.1.2 バージョン 1.x において手動で検出されたサービスは、リリース 2.0.4 に移行されません。これらのサービスをリリース 2.0.4 環境で使用するためには、移行の後で、リリース 2.0.4 のコンソールから目的のサービスを再検出する必要があります。(Bug#812632)